中野神社の境内から続く中野もみじ山は、あたり一面があざやかな紅葉で覆われ、中野川の渓流と織り成す自然美は、昔から景勝の地として多くの行楽客に親しまれてきました。

中野神社・中野もみじ山の歴史

中野神社は、延暦14年（795）に、坂上田村麻呂が蝦夷平定の際、建立したと伝えられ、この地が永く安泰であるようにと日本武尊を祀ったとされています。

ここのもみじは、弘前藩第9代藩主津軽寧親公（やすちか）が、亨和2年（1802）に、温湯村に一泊した際、中野山のもみじや不動の滝に魅せられ、京都からかえでの苗木約百余種を取り寄せ、中野不動尊に奉納。翌年、3本のもみじの苗木を移植しました。

もともとは、全山のいたるところでハウチワカエデやイタヤカエデなどが生育していたようですが、奉納したかえでが生長するにつれ、もみじの名勝としての名声を高め、京都の嵐山に対して、小嵐山とも呼ばれるようになり、多くの人に愛されるようになりました。

神社の境内には、このもみじ3本、大杉3本が昭和58年に市の天然記念物に指定され保護されているほか、樹齢200年を超える対のもみの木が県の天然記念物に指定されています。また、旧碇ヶ関村の国上寺、黒石市の長谷沢神社とともに、「津軽三不動」のひとつに数えられています。

祭　神

中野七福の神々

1.中野不動尊（酉年一代様）
2.日本武尊（諸病平癒の神）
3.坂上田村麻呂（厄除けの神）
4.岩戸姫命
5.大山祇神（オオヤマズミノカミ）（山、水、田の神）
6.倉稲魂命（ウカノミタマノミコト）（五穀豊饒・生活生産の神）
7.少名彦命（スクナヒコノミコト）（薬草を研究し、庶民の病気を治した医薬の神）

津軽三不動とは

唐僧円智上人が聖徳太子の命で、推古18年（610）、津軽に来ました。1本の木から3体の不動尊像を作り、①長谷沢の東光山五輪寺②中野の黒瀧山③古懸の国上寺に勧請（かんじょう）し、津軽三不動尊信仰が確立されました。一日のうちに、三カ所を巡拝すると御利益が大きいと言われ「津軽三不動巡り」をする信仰者が後を絶ちません。

川柳の杜

中野神社境内の、川柳句碑5基・ミニ句碑40基は、青森県川柳社や黒石川柳社の有志の手で建立されています。青森県柳壇の産声は、大正時代のみちのく吟社の機関誌「みちのく」の発刊がはじまりで、小林不浪人が主宰しました。その後、戦後まもない昭和23年1月に若手グループを中心に青森県川柳社が創立され、機関誌「ねぶた」を発行。いわゆる上下関係のない同人制を採用し、今日まで黒石市に事務所を構えながら、創作活動を展開しています。

また、俳句の句碑も3基建立され、往時の短詩型文芸の盛況ぶりを物語っています。井上日石はどうも中央の俳人らしいが記録を確認できません。高松玉麗は正岡子規の系統で青森市の俳人。第1回青森県文化賞を受賞。不動橋のたもとには、十和田湖を全国的にPRした大町桂月の歌碑も建立されています。

主な石碑

雪を恋い雪を恐れて古稀至る	中林　瞭象
一に人二に人三に和が足らず	山田よし丸
退いてみる世の中の面白さ	後藤蝶五郎
すこしずつ義理ある人を妻にいう	後藤　柳允
あきらめて歩けば月も歩き出し	小林不浪人
動中に静を求めて煙草の輪	小林不浪人
龍おどるがに山霊の光冷かな	井上　日石
水韻神に応ふ秋光盛ん那梨	井上　日石
浄く生きる心ゝかふ秋の風	高松　玉麗
ひとしほの木の葉は散りて散り残る楓の山の美しきかな	大町　桂月

こんな人も訪れた♪

イザベラ・バード（1831-1904）

イギリス人女性紀行家イザベラ・バードは、今から約140年前の明治11年（1878）に日本を訪れ、黒石市には3～4日間滞在し、その際に中野もみじ山を訪れています。彼女はそのときの光景の美しさに深く感動し、著書『日本奥地紀行』の中で、「ここはすべてが魅力的である。」と紹介しています。

モミジの見分け方♪

百余種のカエデを取り寄せたと言われる中野もみじ山ですが、現代の品種名と比べると、共通するのは約20種。大半がイロハモミジとオオモミジ系ですが、現存する品種の特定はできていません。樹齢100年以上と想定される木は、中野もみじ山内に約130本が確認されています。

裂片　7枚
細かいギザギザ
葉長　4.5～8.0cm
葉柄　3.0～5.0cm
木肌ややつるつる

オオモミジ

裂片　7～9枚
大きなギザギザ
葉長　6.0～8.0cm
葉柄　4.0～8.0cm
木肌がごつごつ

ヤマモミジ

裂片　9～11枚
大きなギザギザ
形がうちわ型

ウチワカエデ

裂片　5～7枚
大きなギザギザ
葉長　3.5～6.0cm
葉柄　2.0～5.5cm
木肌ややつるつる

イロハモミジ

注：おおよその見分け方のポイント

カエデの主な系統は
▶イロハモミジ▶ヤマモミジ▶オオモミジ
▶ウチワカエデ▶イタヤカエデの5つに分類される。
①イロハモミジとヤマモミジの区別は難しい。
特徴は、葉のギザギザが大きいのが共通。イロハの葉裂は5～7枚、ヤマモミジは7～9枚と数が多い。木肌もポイントの1つでヤマモミジはごつごつしたたて筋がある。
②オオモミジは大半の葉裂が7枚。葉のギザギザが細かい。葉中央部がふくらんでいる。
③ハウチワカエデとコウチワカエデは、葉の大きさが違うほか、葉のギザギザはハウチワカエデが荒い。葉裂が7～9枚でやや少ない。
④コウチワカエデの1年枝に毛がある。
⑤イタヤカエデは角っぽい葉形。オニイタヤやエゾイタヤがある。
※葉裂が5枚のものは、大半がイロハモミジ。
葉裂が7枚のもので、ギザギザが細かいのはオオモミジ。
切込みが浅く、丸形はウチワカエデ。

モミジの豆知識

①モミジの語源は、秋になると黄色や赤に色づき変わって行く様子を「もみづ」といったことに由来。今では、モミジイコール楓と受け止めていますが、本来、草木の葉が赤や黄に色づくことそのものを表しています。モミジの代表例のカエデは、蛙の手が転じたともいわれています。日本のカエデは世界に例がないほど種類も豊富で、園芸品種の更新も江戸時代から盛んに行われてきました。

②モミジは、温度差があるほど鮮やかな色をはじき出します。クロロフィル（葉緑素）が大量にある時は緑色で、秋になると葉を落とすため付け根に離層を形成し、養分補給をストップします。栄養分のなくなった葉のクロロフィルが減少し、隠れていたカロテノイドが現れると黄葉になり、葉の栄養分が変化してアントシアニンが増えると紅葉になります。

中野もみじ山周辺マップ